

森林吸収源インベントリ情報整備事業地域講習会・東北ブロック

開催日：2014年7月18日（金）

場所：岩手県久慈市（調査地点コード 030610）

講師：石塚・平井（森林総研本所）・篠宮・小野（森林総研東北支所）

○概要

平成26年度、東北及び関東ブロックを担当する宮城環境保全研究所の蔵重氏、鷺田氏、他4名（うち2名が講習会に初参加）の計6名を対象に、地域講習会を実施した。当日の天気は講習会終了頃に雨が降ったが、概ね良好であった。調査地点は久慈市内でも西部にあり、九戸村との境界に近い民有林であった。盛岡市内から駐車場所まで八戸道九戸IC経由で約1.5時間、駐車場所から調査地点まで約100mと、アクセスが良好な場所であった。調査地点は牧場に隣接する、アカマツを主体に広葉樹が混じる林相であった。非常に緩やかな斜面で、傾斜は10度程度、土壌型は褐色森林土であった。宮城環境保全研究所は連年担当していること、担当者の役割分担が進んでいることから、講習会は宮城環境保全研究所の新規担当者を主体に作業を進め、森林総研側は状況や必要に応じて助言するような形で行った。

調査地点や杭の確認等、担当者らが事前に済ませていたこともあり、講習会は9時頃より速やかに開始した。概況調査と枯死木調査を実施し、比較的経験の少ない担当者2名が主に作業にあたり、講師は石塚が務めた。概況調査終了後、他の担当者は土壌炭素蓄積量調査を開始した。E地点は牧場の敷地内のため調査対象外とし、1～2名ずつに分かれ、N、S、Wの3地点の試孔掘りを同時に進めた。午後、担当者全員で土壌炭素蓄積量の調査を行った。その際、講師側は3地点に分かれて対応し、試料採取など主たる作業は新規担当者に担当してもらい、土壌断面の掘り進め方や土壌円筒試料の採取手順など、調査の基本的作業に重点をおいて指導した。作業は順調に推移し、14時半頃には全作業を終了した。車に戻った後、試料の確認・リスト作成を行い、全体総括後15時頃に現地解散した。

今回の講習会において、枯死木調査では、分解度判定を中心に指導をおこなった。倒れている根株があったため、地際高については掘り出して計測し、計測後に元に戻すように指導した。分解度判定は誤判定が多かったため、マニュアルを再度確認するとともに、現場においては分解度早見表等を活用して分解度判定能力を高めるよう指導した。土壌炭素蓄積量調査では、堆積有機物の区分について多くの受講生から質問があった。特に、L層とF層の区別が難しいとの意見が多かったため、実際の落ち葉を使ってL層とF層の区分法について返答した。また、Ao層・A層の境界もわかりにくいとの意見であった。Ao層・A層の境界は文章をのみ理解して判別するのは正確に区別できない場合もあるので、色あいや竹串の刺し具合なども利用して判断するとよいことを伝えた。

今回、担当者らは手間取ることなく作業を進めており、本調査に対する理解度の高さを確認できた。また、堆積有機物に関する質問・指導が多かった。堆積有機物層の見分け方などは経験者でも判断しにくい内容も含まれている一方で、本事業にとって重要な部分でもある。今回の講習会を通して、調査担当者を対象に講習会を開催し、担当者の基本技術を点検・確認してもらうこと、調査内容の理解度の維持を図ることが重要であると改めて認識した。



調査地点は、なだらかな斜面に成立した落葉広葉樹を含むアカマツ林であった。



土壌炭素蓄積量調査の際、堆積有機物層の見分け方など指導した。



提出書類の記載内容を確認している様子。



荒掘りの際、堆積有機物の採取予定の場所にビニル袋をかけて、土が混じらないよう工夫していた。



枯死木調査の様子。主に新規担当者により進められた。



E 地点は牧場の敷地に入っており、調査対象外と判断された。